

会 議 録

1 会議名

令和4年度第6回吉川区地域協議会

2 会長挨拶

3 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）会長報告

（2）委員報告

（3）事務局報告

①Jホールディングスグループの整理について（施設経営管理室）

②日帰り・宿泊温泉施設の今後の方向性の検討について（行政改革推進課）

・協議事項（公開）

（1）株式会社よしかわ杜氏の郷の民営化について

（2）自主的審議事項について

（3）その他について

・総合事務所からの諸連絡について（公開）

・その他（公開）

4 開催日時

令和4年7月28日（木）午後6時30分から午後8時58分まで

5 開催場所

吉川コミュニティプラザ 3階 大会議室

6 傍聴人の数

0人

7 非公開の理由

なし

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐豊、薄波和夫、江村奈緒美、片桐利男、関澤義男、高野幸夫、
中村正三、山岸晃一

・事務局：吉川区総合事務所

風間所長、平山次長（総務・地域振興グループ長兼務）、平原総務・
地域振興グループ班長、霜鳥総務・地域振興グループ主任

施設経営管理室

竹下室長、高島主任

行政改革推進課

手塚課長、敷波施設適正配置推進係長

産業政策課

五十嵐課長、平原副課長、藤村産業振興係長

9 発言の内容（要旨）

【平山次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・委員 8 人の出席を報告（4 人欠席）
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：高野委員

【山岸会長】

- ・挨拶

【平山次長】

- ・議長の選出について、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により山岸会長から議長を務めていただく。

【山岸会長】

- ・議長を務めさせていただく。なお、議事録作成のため、発言をする場合は、挙手をし、私から委員の名前をお呼びするので、その後、発言をお願いする。発言は簡潔にお願いする。

【山岸会長】

- ・それでは、次第の 3 報告事項に移る。（1）会長報告であるが、6 月 29 日に実施した頸北地区地域協議会委員合同市長懇談会についてである。6 月 29 日午後 6 時 30 分から 1 時間 30 分程度、4 区全体で 30 名、吉川区からは 6 人が参加し、ユートピアくびき希望館で、中川市長と意見交換を行った。地域自治推進プロジェクトをテーマに絞り、意見交換したが、その詳細なやりとりについては、概要をまとめたものを皆さんに届けたのでご覧になっていただけたことと思う。また、市長懇談会の案内とともに市長に提出した質問事項についても、文書での回答があった。こちらも皆さ

んに送らせていただいた。

- ・もう1点、6月30日に実施した「地域で活動する団体・事業者」と地域協議会委員との意見交換会についてである。頸北観光バス、吉川観光協会、尾神スカイスポーツエリア運営委員会の皆さんと委員7人で意見交換を行った。頸北観光バスは区内の路線バスに関する話や吉川観光協会は道の駅よしかわ、中学生のアンケートにもあった尾神岳周辺の活性化について色々やりとりしたが、今回は初回ということで、いずれこれを進めながら9月までに地域予算化として市への提出につなげられればと思っている。後ほどの協議事項の中で皆さんの意見をお聞きする。これについて、何か質問はあるか。

(質問は無かった。)

【山岸会長】

- ・次に、次第の3(2)委員報告をお願いしたいが、昨日のタイムスの報道にもあった7月24日に開催された中学校区単位の市民と市長との対話集會に片桐委員が参加されたので報告していただく。

【片桐委員】

- ・7月24日この会場で中川市長との意見交換会に出席した。事前に杜氏の郷と地域バスの2点について、お願いしてあった。地域バスは、今年度、安塚区と牧区で実施しており、その結果を見て、先の地域協議会でも示された運行予約型のバスを13区に拡大していきたいという話であった。杜氏の郷については、吉川区の熱い意向を重々受け止めておられるようであり、運営はこれまでの経過を十分承知した中で吉川区から外れることがないように進めていきたいという話であり、これから先吉川区の皆さんは意見交換をするときもあると思うので、その折はよろしく願いする。

【山岸会長】

- ・次に次第の3(3)事務局の報告はあるか。

【山岸会長】

- ・初めに①Jホールディングスグループの整理について、説明をお願いする。

【竹下室長、高島主任】

- ・資料のとおり説明

【山岸会長】

- ・ただ今の説明に質問・意見はあるか。私もJホールディングスの立ち上げ当初に関

わっており、当初は市の予算があったので、初代の社長は他県から誘客したが、それ以降交代されて、しかもコロナ禍で致し方ないかと思う。

【竹下室長】

- ・令和4年度のJホールディングス本体の事業予算の方が販売管理費を500万円計上している。Jホールディングスが存在するだけで500万円の存続経費がかかる。一部機能は事業会社に分散されるが、500万円が縮減される。この間、上越市の第三セクターの対応は、キューピットバレー、三和振興もそうであるが、コロナ禍や経営環境が厳しくなると、会社自体が解散又は状況が悪ければ倒産という傾向であり、今回はグループ全体として、そうなる前に存続の道を図るような取組を進めていこうということで、敢えて整理方針案をこの時期に出している。

【山岸会長】

- ・致し方ないが、当初は共同購入とかお客の扱いも含めて研修会も回番でやっていた。それなりに意味はあった。うみてらす、キューピット、三和振興で非常に厳しくなり現状に至っているわけで致し方ないのであるが、皆さんよろしいか。
(意見は無かった。)

【山岸会長】

- ・次に次第の3②日帰り・宿泊温浴施設の今後の方向性の検討について担当職員から説明願う。

【手塚課長】

- ・資料のとおり説明

【山岸会長】

- ・説明に対し、質疑応答をお願いする。

【薄波副会長】

- ・先ほどJホールディングスの件と温浴施設の方向性の検討は全く別ものと言ったが、関連があると思っている。温浴施設の方向性について、多用途への転用、利活用も含めた調査という話があったが、Jホールディングス一社化にするという方向性は全く逆のような気がしている。その辺をどのように考えるのか伺いたい。

【手塚課長】

- ・コロナ禍の収支状況を踏まえた中で業務の効率化や経費節減を先行して取り組む。まずは運営の部分で先行的に取り組むを進めるというところである。本来であれば施設の方向性と合わせて事業会社の有り様を同時並行的に方向が出せればよいので

あるが、温浴施設については「引き続き協議」で計画策定時にも方向性は決まってい
ない状況である。施設も地域の中でのシンボルである、大切な施設であるので、
ある程度時間をかけた中で施設の有り様を決めていきたいということである。まず
は、先行的に J ホールディングスの整理、4 社の統合をしながら、次のステップと
して施設の有り様と事業会社の有り様を今後議論していきたいと考えている。

【薄波副会長】

- ・温浴施設の方向性は長期的スパンでの考え方で、J ホールディングスは短期的な方針
であるということによろしいか。J ホールディングスについて1社で考えていると
いう話であったが、長期的に見れば1社にする方がいいのか、単独の方がいいのか
というところも検討していると思うが、1社にすることによって、特色もなくなっ
て地域性も失われてしまい、足を引っ張りあわないか心配しているが、その辺はど
うか。

【竹下室長】

- ・J ホールディングスは企業の効率化を確実に図ることを主眼としている。企業が生き
残っていくために如何に効率よく経費を賄っていくのか、そこが大きなウエイトを
占める部分である。コロナ禍であり、利用者数や売上高の減少が見込まれる中、個々
に会社を残す限り、経理等業務、労務管理、決算業務などが必ず出てくる。事業会
社を集約すると効率化の効果が必ずでる。集約化することで経費の削減を最大限獲
得できるものは獲得し、会社として生き残る上で非常に重要と考え、この方向性を
持った中で事業会社を集約化する予定である。

【薄波副会長】

- ・経費の効率化の考え方は分かるが、J ホールディングスの立ち上げ時と同じ発想であ
ると思っている。それにもかかわらず J ホールディングスがこのような状況となっ
てしまったことから同じようにならないか。

【竹下室長】

- ・J ホールディングスグループは個々に会社が分かれている。会社を運営していくため
に、共同購入とか雇用とか、会社設立時のしがらみを持っている状況であった。そ
こをホールディング化したときに、このしがらみを取り払えなかった。共同仕入れ
をもっとしっかりとできた、人の効率化を図ることができた、それがという個々の
会社にそれぞれ社長がいるという部分で事業会社の上にホールディングスという親
会社がいたとしても、あくまで7つ人の会社の社長は、1人なので成果が発現でき

なかった原因と考えている。一つの会社とすることにより、半ば強制的に効率化が図られる側面があるので、ホールディングス化として今後の経営を望んでいくのか、一つの会社として望んでいくのか、今現在は一つの会社としての方が効率化が出るという目論見の中で取組を進めている。今後、詳細な数値をもって専門家と協議しているが、ホールディングス化と事業会社化で経営的な効果が出てくるのか、数値的根拠を示しながらご理解いただきたいと考えている。

【薄波副会長】

- ・ 共通化、効率化を図って進めていただきたい。共通化、効率化を図っていくために、強制的な部分が発生するとの話であった。4社の独自性を失っては困ると思っているので、そういうところは無くさないようにフォローして欲しいと思っている。

【竹下室長】

- ・ 各地域でJホールディングスの話、また温浴宿泊施設の所管課として話をしているが、施設をどのように活かすかは、所有者である行政も頑張らなければいけないと。指定管理者も頑張らなければいけないと。当然のことであるが、地域の皆さんからもこれまで以上の連携、協力をいただかなければいけないと思っている。そういった施設を利活用するための新たな関係性・取組を新たに施設単位でしっかりやることによって、会社は一つだとしても施設の経営は地域の特色を活かして地域の皆さんを巻き込んだ運営・経営をしていかなければ生き残ることもできないと思っている。そのような取組みを進める中で施設毎、地域毎の特色を最大限発揮させていただければと考えている。

【片桐委員】

- ・ 何年か前に昼食を食べに行ったことがある。表の看板は2時まで食事できると書いてあった。私は1時45分に入った。後15分あるから大丈夫かと思ったが、そこでは「2時は食事される方が帰る時間です。」と言われたので、外で様子を見ていた。1時45分から2時まで何もしないでお茶を飲んで待った。2時になったら、さっと帰って行った。一般経営でそのようなことは考えられるか。2時に自分達が帰らなければならないから、お客に居られては困るんだ。そういう意識でやっているから経営が成り立たなくなり、市に後始末をしてもらわなければならないようになった。Jホールディングスもそうであるが、人間一回楽をすると「これでいいのだ、稼がなくても楽をすればいい。」という考えがしまう。従って、Jホールディングスも温浴施設も先行き不安をもっている。要するに関燕温泉街、あそこからある人があることを

やろうとしているが、社長をはじめ皆さん一生懸命であった。そこを訪れた人を感激させる経営をすることが一番大事だと思う。ただ、眺めて観ているだけでは、ことは改善しない。今後の話として覚えていて欲しい。もう一つは、いつもそうだが、切羽詰まってから私どもの方に話が来るような気がしている。平素から、もう少し情報交換して、皆で考えていきたいと思う。

【竹下室長】

- ・第三セクターが公と民間の良い所取りの会社であると定義されているが、民間のメリットが活かされていないところが第三セクターである。赤字になれば、市から補てんや指定管理料の増額が出て利益の概念が育っていかない会社である。売上を上げ利益を上げるのは、お客にいかに来ていただいて、お金を落としていただくのか、そのためにはサービス自体も向上していかなければいけない。経営として施設をどうやって行くのか、それに尽きると思っている。言葉はそぐわないかも知れないが、私達が見ている限り、第三セクター及び温浴施設のサービスが、経営よりは業務委託に近い状況である。お客様にいかに来ていただくというより、お客様が来たときに職員がいて案内ができる、そうすると、お客様が来ていただかない方が職員が楽にお金を稼げる、そういう意識が少なからずある。それが民間であれば一人の人がなんでもやる、皿洗いもする、接客もする、色々なことをやっていく。それが経費の縮減にもなり、様々なお客に接することによりサービスの向上にも繋がる。そこが上手く回らないのは、競争がないので井の中の蛙状態になってしまう。民間の競争の中では、他店よりお客に来てもらわないと、自分の会社がなくなり、給料がなくなってしまうところに直結する。公の施設なので競争の概念が働かないことは承知しているが、民間との競争の中でお客に来ていただくという気が働かないのかと思う。しかし、ゆつたりの郷は頑張られて、利用者数も非常に多かった。それは、先代、現社長、従業員の皆さん、それなりに努力されている結果と思っている。

【手塚課長】

- ・情報交換の件で、切羽詰まった状況で来ているのではないかということであるが、本日は引き続き協議とした6施設について資料を持ち、個別にゆつたりの郷の資料を持ってきた。このデータを見て情報を共有したいと考えている。今後、予定する民間需要調査についても民間事業者の経験やノウハウを活用しながら収支改善や利用促進策など様々な提案や意見をいただいく中で今後の施設の有り様について、協議をしていきたいという思いである。今後、調査結果がでた時点で皆さんにフィ

ードバックをしながら議論を深めたいので、理解と協力をお願いします。

【山岸会長】

- ・温浴施設は、ふるさと創生1億円を基に吉川の温泉を掘り当て、あの施設を建てた。福祉施設を兼ねているので、補助額の上乗せがあった。補助金が付けば付いたなりに大きなものを建てた。民間は小さいところから始めて、業績に応じて、改築したり増設したりするのであるが、補助金目当てとした施設はそうなりがちだ。地域事業費があった頃は、500万円の汲上げポンプが故障し、水中ポンプを購入した。現在、予備を入れて2つあると思うが、その事業費がなくなってからは、市から地域協議会に打診はない。大きい箱ものを作っておいて、その修理・修繕に関しては、経営状況が悪いからというのは行政の逃げだと思う。委託管理業者は一生懸命やっているが老朽化した施設を直すには大きなお金がかかる。小さくはできない。机上で入込数と経費を計算すると厳しいに決まっている。道の駅の大事な施設として吉川区では残ってもらわなければ困る。それが統合して他社と一緒にあって、経営的に大丈夫かと思っている。できれば4社がそれぞれ頑張った上に書類作成、税金関係を経理会社をお願いするなどできないのか。公の施設は商売ごとでやってはならないと思っている。最初から民間とは違う起こりをしているが、地域も期待しているし、通う方々もこれがあるから吉川に行こうと来ている。地域の大事な施設として、今までも利用し、これからも利用していくが、4つになったからというのではなく、地域の施設と捉えなければ、今後の維持も厳しいと思う。一つに会社をまとめると今後どうなのかという不安が起きてしまう。理解を深めながらゆっくりと進めていただきたい。令和6年度で委託業者と契約できるのか。もっとゆっくりなペースでいいと思う。市としても計画的に修繕して来たはずなのに、ここに来てすべて老朽化しているという。令和6年度という目途にしてしまっただけでよいのかと思う。ゆっぴりの郷は大規模修繕してもらい、ずっと使って欲しいと思っている。柏崎、妙高と市外の客も来ているので、これを切らないようにする上越市の力を見せて欲しい。

【手塚課長】

- ・全国的に見て温浴施設とそれを動かす三セクの動きもご案内のとおり、補助金をもらうために、福祉機能や中山間地域機能や定住促進、また、雇用の場であったりとか、そこに建物を作ることによって、この地域のバラ色な未来があるという絵語りの中で事業化されていった。民間であれば市場動向を見て設備投資をしてやるのは基本であるが、施設は多機能であり、大規模であることが相対的にいえると一般的

に認識している。福祉機能や地域振興の中で建てたとしても、現状は温浴宿泊施設として観光的要素が強い中で、一定の採算を確保していかないと将来負担が残ることがないようにしていかなければならない。どこかで建物をダウンサイジング、または、何かの機能を絞り込みをするなど様々な手法が想定される。今後、地域と議論を進める中で施設の有り様を地域の核として残っていけるような方策を進めていきたいと考える。

- ・ 1社になることによる心配もあるかと思うが、各地域の特殊性を活かした中で施設経営されると認識している。逆にゆったりの郷が行っている集客イベントなどよい取組を他施設で活用するメリットもある。統合により良さがなくなる懸念はないと思う。
- ・ 令和6年度を一定の期間と申し上げたが、今の指定管理者との契約が3年間であり、これを目途ととらえているが、今後の議論の中で時間を要するのであれば、相談したいと思う。柔軟に対応する。

【山岸会長】

- ・ 各社のノウハウを共有してという話は、Jホールディングスでやっている。ゆったりの郷の誘客方法、販売方法は他の6社に流れており、研修会でやり取りしている。職員交流もやっている。初代の会長は、Jホールディングスにしたかったと言っていない。各社の特色を活かしたいと。それでテコ入れしたのが、三和であったり、名立であったり、キューピットであったり、誘客を一生懸命されていた。今の話は、4社が1社になって、それでは上手く行かないと私は逆に申し上げる。既にやってきた結果がこれである。

【竹下室長】

- ・ 平成25年にJホールディングスが設立され、各社長の間では一定の成果があったと認識している。今、現在ホールディングス化の成果は見受けられない状況である。13区入る中で個々の法人がどのような状況かという、小さい組織で人がマンネリ化し、設立当時入った20代、30代の人そのまま50代となっている。経営基盤がぜい弱で新たな雇用も生まれない。組織的に高齢者だけの団体となったり、組織として若返りも図れない、個々の小さい会社の宿命と考える。会社が小さいと経営基盤も小さく、資金もコロナ禍の波を乗り越えられなくなっている。例えば、大潟地域活性化センターも資本金は1千万円もない。市からの補てんがなければ、一つのコロナ禍で簡単になくなってしまう。会社が生き残るために経営基盤強化も重要であり、新

たな職員を雇用し育てていくこともホールディングスの中では、自社で育てた人材が他社に行くというわけにはいかないの、事業会社の集約は生き残るための一つの方策と思っている。市町村合併も然り。民間企業も統合している。必ず事業会社統合ありきで進んでいる訳ではないが、効果を見極め、株主にもしっかり説明できるようにして取組を進める。

【山岸会長】

- ・ よろしく願います。情報の共有とこのようなやり取りを小まめにさせていただきたい。

【山岸会長】

- ・ それでは、次第の4協議事項に移る。(1) 自主的審議事項 株式会社よしかわ杜氏の郷の民 営化についてである。7月11日の地域協議会で協議し、7月12日付けで市に意見書を提出した。これを受け、本日、産業政策課の職員から説明をお願いする。

【五十嵐課長】

- ・ 資料のとおり説明

【山岸会長】

- ・ ただ今の説明に、質問・意見はあるか。

【片桐委員】

- ・ 道の駅よしかわ杜氏の郷の管理業務は、いつから杜氏の郷が受けるようになったか。

【五十嵐課長】

- ・ 大分前からやっている。庁内関係課横断的に農業振興と連携した中で道の駅の将来構想を考えていく。

【片桐委員】

- ・ 道の駅よしかわに名誉駅長を是非作って、高校生を就任させ話題を提供して欲しい。

【五十嵐課長】

- ・ 様々なご意見を伺い、参考にさせていただく。

【山岸会長】

- ・ 時系列を再確認したい。この件について最初に地域協議会に説明されたのは、1月か2月であったか、その後6月に公募してとあったので、5月に意見書にしたが、あの時点では、条件・評価は我々には示されていなかった。市議会に出してからでないということであった。その後ということで、我々は今日になったということかを

改めて確認したい。

【五十嵐課長】

- ・令和3年12月24日に所管事務調査で議会に解散、増資、民間譲渡の選択肢の中で民間譲渡を進めたいことを説明し了解いただいた。地域協議会では令和4年1月13日に今の内容を説明し了解いただいた。地域を大事に進めるという話であったと思う。その後令和4年5月2日に意見書を提出され、令和4年5月19日にお邪魔したが、その間、株主説明会、議会に説明している。5月19日には細かい評価基準は示していないが、今後のやり方を説明している。詳細については、是非地域の意見を聞いてもらいたいという話があったので、安心して進めさせてくださいと、選定委員会に地元代表が2人入れるため意見を反映できる、安心してくださいと説明した。その後議会で説明させていただいた後、株主・地元説明会を令和4年6月24日に行っている。

【山岸会長】

- ・流れで評価基準に地元の意見を反映しているのかとその時点では思った。ただ、お邪魔して7月8日に対応していただいて、その時には、ここで30点とっても、ここと価格でチャラではないか、という印象を受けたので、地元にも有利なもの望んでいるという話をさせていただいた。そちらでは、あなた個人の意見なのか、協議会としての意見なのかとお話しいただいた。この評価基準であると我々が思い描くような企業に落ち着くのか不安がある。今後10年、市の担当者が変わる中で、どこまで責任がとれるのか。協議会の中でも不安があると。売却した後どこまで縛れるのか。反則金といっても買ってしまった人に経営成り立たないのでこうしたいのと言われたときに、市と協議するとあるが、当初の計画どおりやってくださいということをどこまで強く押していけるのか。この辺が不安だという委員の意見もあった。私もそう思っている。実際に公募に係る前に話を聞いていただきたくて、お邪魔したわけであるが、非常に不安が残ってしまった。

【五十嵐課長】

- ・評価基準は選定委員の意見を聞き、進めさせていただいた。選定委員の中には地元にも配慮しすぎるとそれだけにこだわってもどうか、という意見も伺った。不安な部分がないよう地域性や事業の適合性をしっかりと見て進めたいと思っている。10年の網掛けもあるが、そういうことにならないように選定を進めていきたいと思っている。地元ならいいのか、資本力があればいいのか、と色々な観点があるが、それ

も含めて今回の提案が皆さんの不安になることがないように選定を進めていきたいと思っている。今日のご意見の選定委員に伝えながら慎重に審査を進めていく。

【山岸会長】

- ・吉川区外の方は公平に行きなさいとおっしゃると思う。しかし、公平という言葉にごまかされて地域の思いがつぶされるのは困る。我々としては意見書のとおり、段階的に公募をかけて欲しかった。一発公募で全部に広げるのではなくて。なんで段階を追えなかったのかという思いが、お邪魔した数日前あたりから色々な人と話しているうちにご意見をいただく。「確かにそうだな。」と。今回全国一発で公募をかけるが地元企業で経過も分かっているところが配慮しなければならないことも当然ご存じである。何を大事にしなければならないか全てわかっているそういうところにまずお願いできなかったのかというやり取りがあった。実際に公開になる前に伝えたいと思いお邪魔したのだが。このまま行っても結果がオーライであればよいが、タイムスに出ていた市長のコメントで名立は長野の業者が買い取って、そのまま従業員を使っているとの話もあって、私は長野の業者はよく存じ上げないので、うみてらすがどこまで地域の思いをつなげていかれるのか、同じように杜氏の郷がそうになって欲しくないし、資本力や将来性となると当然金を沢山持っていて売りさばける業者、逆に今の製造権、キロリットルそれが欲しくて色々な作文を上手に作って入ってくるそういう会社があったとして、今謳ってあるような縛りが本当に生きるのか、売ってしまってから市としてどこまで縛りをかけられるのか、どこもそこがすっきりと飲み込めない。結果的にこの答申をいただいたので、また、我々で協議していきたいとは思っている。説明にきていただいたので承ってはおくが、私達にとってはそういうことだ。見せたときに反応が無かったということではなく、色々な人と情報交換しているときに、「これ、こうじゃないの。」とか「こういう方法はどうなの。」という話があると「なるほど」ということになる。そのときに聞いていないからではなく、経過を経てその先に公募にかけて欲しかった。お邪魔したときに、既に明日配るような話をしていたので、でも実際は午後に配ったのだ。仕方ないのかと引き下がってきたが、あのときもう少し待ってくださいといえれば良かったのかもしれない。私が至らず、中々そこまで言えなかった訳である。

【薄波副会長】

- ・今日回答を見たばかりで中身はこれから確認していきたいと思うが、「2か月双方で確認しながら進めてきた」とあるが、評価基準については6月24日の地元説明会

のときに説明された内容と理解しているが、6月24日からホームページにアップする7月8日までに2週間しかない。6月24日に説明して何も意見がないからホームページにアップするというのは「2か月双方で確認しながら進めてきた」ことに当てはまらない気がする。6月24日に評価基準が出ていれば、またそれに対して地域内外の協議しながら進めるべきではなかったかと思う

【五十嵐課長】

- ・これまでも双方という中では、選定委員会に話したのが6月上旬であり、その前にも関係者には話していた部分もあるので2か月という話をした。その間様々な方から意見をいただいた中で会長にも最後に報告した中で手続きを進めたところである。そこは是非ご理解いただきたい。

【薄波副会長】

- ・ぎりぎりになってから説明をしてこれで行くのだという進め方は非常に多く見受けられる。それで今回もまたそのようなことが起きてしまったという認識でいる。温浴施設の話にもあるように、充分皆さんと協議してゆっくり議論を深めた中で進めていただくようお願いする。

【五十嵐課長】

- ・分かった。

【山岸会長】

- ・いただいた答申を協議したいと思っている。あの施設は吉川の核であることは間違いない。道の駅の大事な部分である。どこでもいいから民間会社からやってもらうということではなく、今までの流れと経営状況、公の施設は経営だけ見ると中々そぐわないのかもしれない。公の施設に関しては、行政とのすれ違いを改めて認識している。今後お願いしたいこともあるので、よろしく願います。

【五十嵐課長】

- ・今後も皆さんと意見交換をさせていただいて参考にしたいと思っている。よろしく願います。

(産業政策課退席)

【山岸会長】

- ・我々としては地元の思いが杜氏の郷で生きていくために考える立場であり、発議・発言する立場であるので、また、改めて答申についてお聞きする。
- ・次に次第の4(2)自主的審議事項についてであるが、これまで、吉川区地域協議会

が単独で行った市長との懇談会や頸北地区地域協議会正副会長会議が主催して行った4区合同市長懇談会で、市長は、「地域協議会は、色々な団体とコミュニケーションをとってください。吉川区の地域の宝、魅力を探してください。地域が向かう方向性、ビジョンを決めてください。」と話していた。色々な団体の話を聞くことも大事であるが、まず、9月の予算建ての時間的な期限の中で収めるには、今後、吉川区として提案事業になるのか、意見書になるのか二つの方法があるが、区内の団体とは逐次意見交換を進めていかなければならないと思っている。地域予算に向けた、事務局として現時点でのアドバイスをいただきたい。

【風間所長】

- ・先ほど配った会議録の4ページに市長の言葉を起こしたものが書いてある。3つのお願いがあり、宝を伸ばしていき、困りごとをどうしていくのかというのが独自予算になってくる。これは市の各課の予算となると思うが、地域活動支援事業の内容とは違う。レベルは高く難しいと思っている。事業の目的、計画、効果、概算の費用、予算要求の流れとなる。予算が形になったとして財政の査定があり、その後、議会となる。地域活動支援事業とは違い、目的、効果を持った事業となる。地域活動支援事業と比べると高い視点が必要になる。

【山岸会長】

- ・市長との懇談会の中では柿崎での話であるが、地域活動支援事業でどうしても継続したいというのであれば上げて来られたらという話が出ていたので、それに乗っかるというのは出来なくはないのかと思う。市議会に判断してもらわなければならないとなると、事務局にはかなりの骨折りがなければ、そういうことにならないかと思う。また、意見書として出す部分はどういう判断となるか。市長の采配という部分で決まるのか。

【風間所長】

- ・不明なところもあるが、このようなところに事業をしてください、あるいは補助をしてください、あるいはこのような作業をしてくださいという頼み方になる。しっかり事業の形にはなっていないので、今ある事業の後付けになるか、箇所付けになるか、新たな事業が起きるのか、担当課で考えるのか不明ではあるが、予算策定は地域への聞き取りはあるとは思う。

【山岸会長】

- ・それを受けて3団体と話をしたつもりだ。頸北観光バスの場合、区内の公共交通を請

け負っているが、できなくなったら、その後の動きとして受けてもらえるのか。戸前から戸前までという話もしたかったが、取り合えず今後の動きはどうなるか位の話しかできなかった。後、一番上げやすいと思ったのは尾神岳スカイスポーツで尾神岳の周辺整備も含めて、県レベルの大会もあり、今回の支援事業でランディングの整備もしている。ここの団体もあるので受け手になってもらって事業化を進められないかと。道の駅周辺の活性化で杜氏の郷が今日お聞きして、どうなるかということもあるが、あそこは柿崎インターから降りた車や新井柿崎線を下ってきた車も寄るので、結構利用者はある。あそこに地域の活性化も含めてもっとアピールできるものが欲しい、例えば吉川区の観光案内板、名勝案内板とか、竹直の元庄屋が今後管理が難しいとお聞きして、改めてお邪魔したが立派な建物である。今、市で4つの豪農の館をシャトルバスで回って案内したりするが、その中に入れてもらって、軽食が取れたり、宿泊ができたりする施設にできないのか。市の方で管理していただければありがたいという話もいただいているので、道の駅関連で市にお願いできないかと思っている。道の駅となれば柿崎区も含んで考えるべきかと思っている。何か考えがあればお聞きしたい。

(意見は無かった。)

【山岸会長】

- ・特段無ければ、尾神関連と道の駅関連で9月に向けて進めさせていただく。私案であるが、道の駅活性化のための組織を立ち上げ、事務等の経費を市から出していただき、その先にどんなことをどのように進めていくと行って行けばいいと考える。当然、吉川観光協会、商工会、長峰町内会、竹直町内会、関連団体に声掛けする。尾神の方は、枝木があつてマイクロもやつと上っているのに、すれ違い場も少ないし、側溝があつて落ちるといふ話を聞いている。側溝に蓋をかけるには費用がかかり過ぎ、市道なのですれ違い場もカーブミラーの修繕もできるので、意見書として上げたらどうか。8月の協議会でこれ以外にあれば、出していただいて案を絞り、9月の提案に間に合わせたい。自治・地域振興課が28区の会長を集める日程調整をしている。その日に来年度に向けて統一を図りたいとのことである。それを含めて、来月の定例会で皆さんからご意見をいただいて絞り込みをしたい。賛同あればその方向でいかがか。

【片桐委員】

- ・道の駅の活性化について、関係者から意見を聞くという話であった。委託管理はいつ

から始まったのかとお聞きした。杜氏の郷の従業員は駅長でもない。そうすると道の駅としての体制づくりが大事である。まず、道の駅の構成を考えていただきたい。

【五十嵐委員】

- ・ 総体的には賛成である。尾神と道の駅。尾神はアクセスが悪い。市道の整備をお願いしたいところと考えた。道の駅を組織化したものをきちんと作り、その管理体制を形作っていく。ハコを何とかしようとするとかかなり経費がかかるので、組織で検討してもよいと思う。

【薄波副会長】

- ・ 予算化に向けての考え方で前々回、尾神と道の駅で皆さんに理解いただきその方向で進んできた。レベルは、単年度でできる部分と3年5年と計画立てて行う部分と内容を詰めていかなければいけないと思っている。尾神の道の整備は1年で済むのであればそれでよいが、そうでないとすると問題のあるところをやって行く、道の駅の小屋を何とかしたいというのであれば、それを含めて拡大して野菜を売る場所を増やしたいとか、体験農場を作ったりする考えもあると思うが、1年で進めるのではなく3年5年と長期の目で見取り組んで行けたらいいと思う。道の駅の数是全国で1,500あるが、毎年毎年増えてきている。増えてきている理由は、道の駅は単なる車で寄る場所ではなくて、そこが観光施設となっている施設が多い。そこに行けばなんでもある。子どもを連れて行き一日過ごせる道の駅もできているので、そういうところを目指して5年後の先を見て考えていければいいと思っている。

【山岸会長】

- ・ 今日、めざましテレビで入込の多い道の駅ランキングをやっていた。緑地でそばを売っていたのか、あそこを含めて市が実施したサウンディング調査の結果を参考にを見せていただいて、私案なので市からアドバイスをいただいて地域の活性化に繋がればいいと思っている。

【山岸会長】

- ・ 次に次第の4（3）その他であるが、委員から何かあるか。
(案件は無かった。)

【山岸会長】

- ・ 次は、次第の5 総合事務所からの諸連絡についてお願いします。

【平原班長】

- ・ 長峰城址保存活用事業の経費の項目間での変更承認及び見学会のお知らせ並びに大

潟区地域協議会だよりの配付を説明

【山岸会長】

- ・次は、次第の6その他に入るが、委員から何かあるか。

【五十嵐委員】

- ・湯沢の八海山酒造に行った。数年前よりも更に建屋が増えており、雨の日にもかかわらず凄い観光客であった。ウイスキーも焼酎も。ボトル1本1万円でボトルキープに皆が並んでいた。ここまで頑張るんだな。そういう力、意気込み、やり方、先ほども検討課題が出たが、杜氏の郷にもそういう夢があればいいのにと思っていた。八海山酒造もバームクーヘンも作り、そば・うどんのレストランや古民家が有ったり、雪室が有ったりした。杜氏の郷も色々な手法を勉強しながら頑張っていたらきたいと思う。

【山岸会長】

- ・杜氏の郷の若泉は復活できないか。折角、一時有名になったのにすっかり消えてしまった。
- ・他に何かあるか。
(案件は無かった。)

【山岸会長】

- ・事務局は何かあるか。
(案件は無かった。)

【山岸会長】

- ・次回の地域協議会の日程は、8月25日(木)に開催したいが、いかがか。
(意見は無かった。)

【山岸会長】

- ・今回は3名の委員が欠席であったが、あまり欠席が多いと流会にならなくても、区民の代表で発言していただかなければならないが、発言者が少ないことは非常に不本意であり、部会の活動も何とかすすめていただきたいし、どうしたらよいか分からなければ事務局に相談していただきたい。私は当初から、この4年間の間に提案事業とか出したいと思っていたのでお願いしたい。人口減は若夫婦が定住しなければ、収まらないと思っている。愛知県のある市長が子育て支援を強くやっており、上越市もそこまで考えて欲しいし、昔、特区があったが吉川区に子育て特区を引っ張れないかと思う。そういうことを含めて部会で検討し要望、発案していただきたい

い。次回の地域協議会は、8月25日（木）18時30分から、吉川コミュニティプラザでお願いしたい。

- ・他になければ、閉会の挨拶を薄波副会長にお願いする。

【薄波副会長】

- ・コロナが市内300名を超えている。県でも3,200名。これから夏休み、お盆に入り、中止になるイベントもなかなかないようだ。充分気を付けて過ごしていただきたい。
- ・以上で第6回地域協議会を閉会する。

10 問合せ先

吉川区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL: 025-548-2311 (内線213)

E-mail: yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。